

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

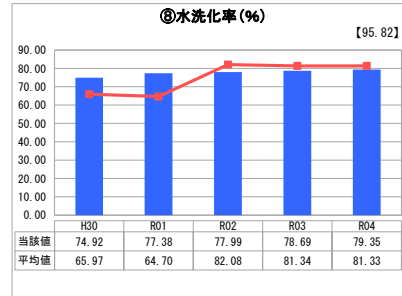
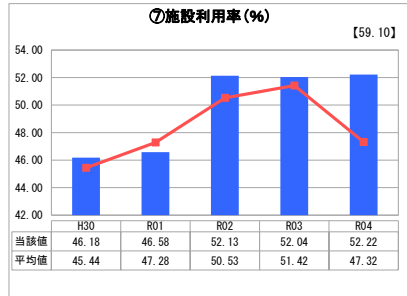
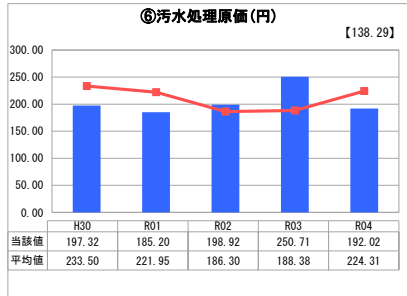
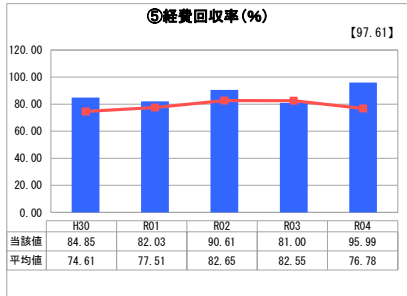
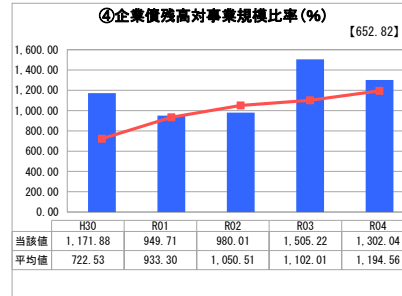
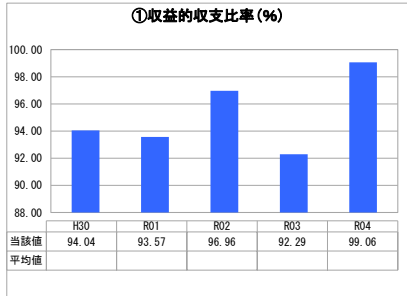
佐賀県 多久市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	32.15	98.03	3,960

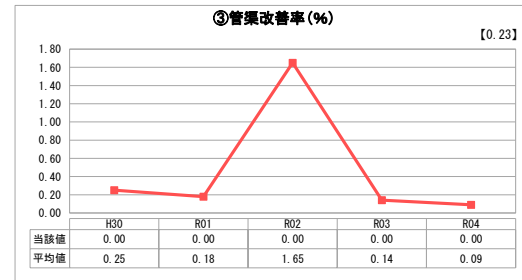
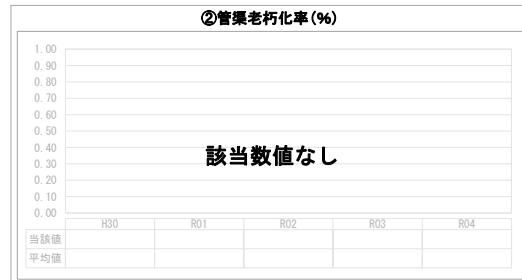
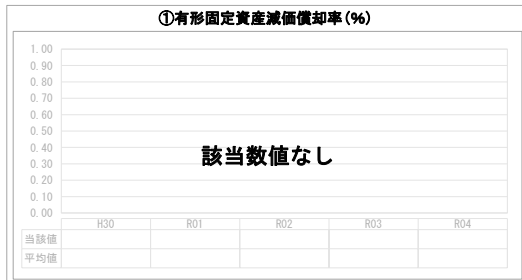
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,285	96.56	189.36
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,811	2.35	2,472.77

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率については、前年度より修繕費等の支出が減少し、打ち切り決算を行った関係もあり前年度から上昇している。
- ④企業債残高対事業規模比率については、前年度と比較すると、打ち切り決算による営業収益の減少、一般会計負担額の増加により下降している。類似団体の平均値よりも上回っている状態にあるので改善に向けて取り組む必要がある。
- ⑤経費回収率については、打ち切り決算による汚水処理費の減少により上昇している。
- ⑥汚水処理原価については、打ち切り決算による汚水処理費の減少により下降している。
- ⑦施設利用率については、大きな供用開始エリアが無かった為、前年度比に対して横ばいとなっている。
- ⑧水洗化率については、前年度から微増である。

### 2. 老朽化の状況について

平成17年度からの供用開始であり、管渠での法定耐用年数を超える箇所については該当なしとなっている。また、管渠の点検については、必要に応じて実施しているが、ポンプ設備については老朽化が進んでいる為、適時更新等をおこなっている状況である。

処理場については、機械装置等が更新時期を迎える為、適時修繕・更新等を行う必要がある。

### 全体総括

打ち切り決算により、令和4年度分の一部の支出分が減少しており、数値が改善しているように見える箇所がある。

汚水処理に係る費用の一部を使用料以外の一般会計繰入金等に依存している状況にある。

今後、水洗化の促進を図り、施設利用率を向上させるとともに、計画的な機械装置等の更新を行うことで、修繕費等の削減、汚水処理原価を下げることで、経費回収率を向上させるなどの取り組みを行い健全な経営を目指す必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。